

糖尿病で治療を受けています。 インスリン療法を勧められました。

糖尿病は健康な人よりも高い血糖値が続く病気です。それによつて様々な細胞の糖代謝に狂いが生じます。急激に血糖値が上がってきたときは、口渇、多尿、倦怠感、体重減少などの症状が出ます。少し高い程度ですとはつきりした症状は出ませんが、全身にくまなくある血管が徐々に傷んできて、太い血管では心筋梗塞、脳梗塞など、細い血管では糖尿病腎症や糖尿病網膜症などをひき起こします。末梢神経細胞の代謝異常ではしびれ、いたみ、立ちくらみなどいろいろな神経症状が出てきます。また免疫力も低下し、肺炎や腎

孟腎炎、壊疽(えそ)なども起こしやすくなります。

これらの合併症を起こさないあるいは改善させるには血糖値を健康な人にできるだけ近づけることです。

糖代謝にはインスリンというホルモンが重要な役割を果たしています。体の中で血糖値を下げるホルモンはインスリンしかありません。そのためインスリンが体に必要なだけ作れないと血糖値は上がってしまいます。またインスリンがある程度出ていても効きが悪いと血糖値は下がりにくくなります。

糖尿病の主なタイプ(病型)

インスリンを作る細胞(膵臓のランゲルハンス島にあるβ細胞)の数が急激に減ってしまつてインスリンが必要なだけ作れないタイプの糖尿病を1型糖尿病、インスリンはある程度作っているけれども効きが悪くなつて血糖値の下がらないタイプの糖尿病を2型糖尿病と言います。2型糖尿病でもきちんと治療を受けないと高血糖を放っておくと、β細胞に高血糖ストレスが加わり続け、せっかく作っていたインスリンも作れなくなります。日本人の糖尿病患者さんの約90

%は2型糖尿病で、1型糖尿病の方は5%くらいです。

糖尿病の治療

血糖値をできるだけ健康な人に近づけるための方法(治療)として、食事療法、運動療法、薬物療法があります。薬物療法も飲み薬(経口糖尿病薬)を使う方法と注射による方法(インスリン療法)があります。

経口糖尿病薬はインスリンの分泌を促したり効きをよくしたりする働きを持っています。しかし作れなくなったインスリンを作らせる作用はありません。1型糖尿病に限らずインスリン分泌能力の落ちた糖尿病患者さんにはインスリン療法が必要になってきます。

インスリンは1型糖尿病でも2型糖尿病でも、また重症から軽症までのあらゆる糖代謝異常状態で血糖降下作用を発揮します。従つてすべての糖尿病患者さんに使うことができます。と

くにインスリンの分泌が明らかに悪い場合、あるいはかなりの高血糖状態や感染症などの強いストレスが加わっているときは、インスリン療法が必須です。

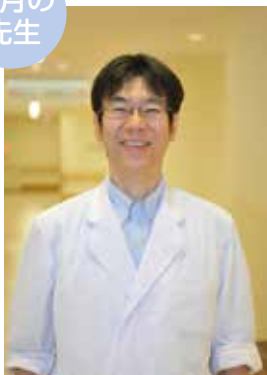
インスリン投与方法には2つの方法があります。インスリン(頻回)注射療法、インスリンポンプ療法です。それぞれ長所短所があり、個々の患者さんの病態に応じて使い分けます。主流はインスリン(頻回)注射療法です。

インスリン注射療法は以前に比べてとてもやりやすくなりました。作用時間が短いタイプから1日以上効くタイプまでいろいろな製剤があり、それらを用いてうまく組み合わせることにより(場合によっては飲み薬と併用することにより)、それぞれの患者さんの病態に合った治療をすることが出来ます。

トラブル(合併症)を起こさないためには良い血糖コントロール状態を続けることが大切です。食事療法、運動療法に加え、血

糖コントロール状態が悪いときはインスリン療法、そして落ちてきているときは経口糖尿病薬で治療するなど、そのときそのときの状態に応じて適切な治療を行うことです。そして合併症を起こさないように、悪化させないようにしましょう。

今月の先生



岐阜市民病院 総合内科
山田浩司 先生

○専門分野

糖尿病

○役職

総合内科部長

糖尿病・内分泌内科部長

○主な資格、認定

日本内科学会総合内科専門医

日本糖尿病学会専門医

○卒業年、主な職歴

昭和57年山口大学医学部卒

岐阜大学大学院(生化学)修了

南フロリダ大学医学部留学

豊川市民病院